



## 第1回 日越留学生弁論大会を振り返って

大阪なにわRC  
会長

### 藤本 滝三

秋空の澄み切った空気の中で大阪大学豊中キャンパス内の大阪大学会館講堂におきましてこの第1回日越留学生弁論大会は開催されました。

大阪大学で日本語を勉強するベトナム人留学生、日本各地でベトナム語を勉強する日本人、総勢16名の出場者が選考され舞台上に立ちました。

ベトナム人留学生のほとんどが大阪大学の学生に対して日本人の出場者ははるばる仙台、東京からの高校生、主婦の方、そして83歳のご高齢の方もおられ正しく老若男女の争いでした。(ベトナム語を勉強しておられる日本人がまだまだ少ないと言う事も有り、遠隔地よりの参加者もおられました。)

スピーチはまず、ベトナム人留学生の方々から進められました。皆さんに与えられたテーマは「輪」で皆さん思い思いの感性で日本のこと、祖国の事、平和の事、友達の事を流暢な日本語で語られました。

日本人が喋るベトナム語のスピーチに対しては前もって和訳をされた原稿をそれぞれの皆さんに配られていましたので、会の運営はスムーズにこなされていました。審査に関しても16人の出場者全員に審査委員からの質問を与えられました皆さんの的確な返答に感心させられ、その研究熱心さには驚かされました。

ここ暫くのベトナムの経済発展には目をみはるものが有りますが、若い学生さんの心は日本の昔を彷彿とさせるようなところが多々有るようになりました。

我々なにわロータリークラブでも中国、韓国の米山奨学生をお世話させて頂きましたが、大きく彼等の感性とは違う物を感じました。

3回、4回の打合せをする中で大阪大学、ベトナム人留学生、弁論大会その全てが我々なにわロー

タリークラブでは第1回目と言う事も有り色々な所でコミュニケーション不足が有ったり、打合せの下手際も有りましたが学生の皆さんの持ち前のバイタリティーと問題解決能力の高さで修復がされました。

地区の補助金を受け取ってから行動のスタートですので、開催日が10月11日と言うのは少しきつかったのかも知れませんが。(英語の弁論大会で有れば問題は無かったのかも知れませんがベトナム語となれば日本人でベトナム語を喋る人はまだまだ少ない様です。)

無事に審査も終わり優秀者の発表が有りました、表彰状と記念品を手にした人達の嬉しそうな顔は澁みなく爽やかな笑顔でした。

閉会の後、階を変えて懇親会を開催致しました。在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館の副総領事のグエン サウ氏の挨拶を皮切りにアオサイの民族衣装を着られた学生さんも加わり会場が更に華やかになりました。

我々なにわロータリークラブのメンバー 12名と全ての参加者がここに集いました。

この弁論大会はベトナム現地のメディアにも多く取り上げられ大きな評価を頂きました。

今回、この日越留学生弁論大会で我々が感じた事は『一つの小さなキッカケでこの様な大会を開くことが出来た』総勢28名の小さなクラブが総領事館の副総領事のご列席を受け、大阪大学の大学会館を使用しての弁論大会の実施をすることが出来たことは、なにわロータリークラブの存在意義を内外に示す切掛けに成ったのではと考えます。

米山奨学生の指定校でも有ります大阪大学における中国人、韓国人に偏重して来た米山に対して一石が投じる事が出来たのではと考えます、学内にはベトナムをはじめまだまだ発展途上国から来ておられる方が沢山います。そういうところで目を向ける事が出来たことは大きな意義が有ったように思います。

まさに立野ガバナーの提唱されておりました「発展途上の国々の若者に光を与えるような活動を！」のお言葉通りの活動だったと思います。

この活動を今年1年で終わらせるのではなく、実施する内容を変えながら東南アジアの国々に力を入れてゆくことがなにわロータリーの知名度を上げてゆく足がかりに成るのではと考えます。幸いにも、なにわには「なにわ奨学基金制度」と言う奉仕活動を目的とした活動に出せる基金が有ります。

地区補助金と共に、その基金を同時に使うようにしてゆけば総勢26名の小さなクラブが大きな奉仕活動が出来る様になる！これこそがロータリーの奉仕活動の本質でありクラブのステータスを上げる原動力に成るものだと考えます。

IM7組の中のクラブで、米山奨学生が自国に帰って新しいロータリークラブを作り、お世話に成った日本のそのロータリークラブと姉妹クラブの提携をしたお話を聞きました。

ベトナムには未だロータリークラブは有りません。今、我々がお世話をしているベトナムの留学生が本国に帰って、将来ロータリークラブをベトナムにつくり我々と姉妹提携をするような夢、そして機会を物にする為のスパンの長い戦略計画を組んでいくのも、なにわロータリークラブの夢が膨らんで良いのではと考えます。

なにわロータリークラブだけで無く、IM7組全

体を動かす、更に米山をも動かすような力になればと考えます。

今回の日越留学生弁論大会を実施させて頂いて、なにわの可能性に光が射した様にも感じました。資金のない、人数も少ないので奉仕どころでは無いと考えるよりも、なにわ奨学基金制度が有るわけですから有効に活用をしながら奉仕活動をし、クラブのステータスを上げる努力をするべきと考えます。

繰り返しになりますが、資金も無い人数もいないので有れば戦略を考える。広く浅く奉仕活動をするのでは無く一極集中に切り替える事も必要かと思えます。全員で行動を逸にして大きなビジョンをぶち上げる！痛快では無いですか！

この度は、この様な機会を与えて頂いたベトナム社会主義共和国総領事館 副総領事 グエン サウ氏、大阪大学大学院言語文化研究科 言語社会専攻 准教授 清水政明氏、在大阪ベトナム青年協会会長 ホアン ティ キム ズンさん(大阪大学経済学部在籍)はじめ、ベトナム青年学生協会の皆さんそして地区補助金のご協力を頂きましたR I 2660地区財団の皆様にご感謝申し上げます。

